

竹ノ下弘久研究会募集要項

—社会階層論・計量社会学—

2020年12月4日

1. ゼミの研究テーマと関連する授業の履修

本研究会では、担当教員である竹ノ下の専門領域である社会階層論を主たる領域に、研究会の活動を進めていく予定です。社会階層論では、人々が現代社会を生きていくために必要な社会的資源の不平等な配分のあり方に注目し、資源の不平等配分が生じる社会的メカニズムを考察します。また、階層や不平等の形成は、政治、経済、地域社会など非常に幅広い社会的領域の中で生じます。

2021年度の研究会の主な活動は、格差・不平等問題を中心に、家族、教育、ジェンダー、労働・職業、地域社会などをテーマに、質問紙調査によって得られたデータを用いた統計分析と、統計分析結果にもとづくプレゼンテーション、ディスカッションを中心に行います。また、統計分析を適切に行うには、仮説構築やそのために必要な理論の学習が非常に重要です。研究会の中では、社会階層や不平等の理論の学習も行います。データは、2018年度の研究会で、千葉県内の2つの市町村で実施した質問紙調査のデータや、ミシガン大学や東京大学のデータ・アーカイブなどで学部学生にも広く公開されているマイクロデータを、授業内で使用します。統計分析を行うために、授業では何らかの統計分析ソフトを用います（SPSS, stata, R のいずれか）。研究会の時間だけでは、統計学の学習のすべてをカバーできないので、竹ノ下研究会に所属する学生には、三田キャンパスで開講されている統計学や統計情報処理関連の科目の履修を強く推奨しています。

2019年度までは、毎年、夏合宿を行ってきました。2017年度と18年度は、合宿の中でフィールドワークやインタビュー調査を行い、2019年度は、三田祭報告に向けた準備とディベートを行いました。2020年度は、コロナ禍で夏合宿は実施できませんでした。おそらく2021年度も同様と思います。もし、合宿が実施できる場合は、フィールドワークやインタビューなどを企画して、実施する可能性もあります。

2. 授業の進め方

研究会に参加するみなさんの関心をふまえ、グループ分けを行います。各グループは、格差・不平等、教育、ジェンダー、家族、労働・雇用、福祉、社会関係資本、地域社会などのテーマから、いずれかのテーマを選択します。これらのテーマのいくつかについて、文献を購読します。文献購読には、対話型学習法（Learning through Discussion: LTD）というアクティブ・ラーニングの手法を用います。この手法では、受講学生全員が、指定された文献について、事前に与えられた項目に関して予習ノートを作成し、それをもとにディスカッションを行います。LTDの詳細は、初回の授業時にあらためて説明します。また、授業の前半には、統計分析に必要な統計学についての学習と、統計ソフトを用いた分析の実習を行います。分析結果の中間報告を三田祭で行い、上智大学、早稲田大学と合同で行っているフィールドワークの成果報告会でも報告します。研究会全体で行っている共通課題の遂行と並行して、個人研究報告も随時行います。授業は、2学年合同で行うため、4年生対象の研究会にも出席することが求められます。

3. 入ゼミ課題・選抜方法

(1) **2021年1月26日(火曜日)午後11時59分59秒までに**、以下のURLに必要事項を記入して、送信してください。

<https://forms.gle/q3Z3dwQBgV7eBQx9A>

こちらのGoogleフォームに記入するには、keio.jp アカウントによる認証が必要ですのでご注意ください。

- ・氏名、学部学科、学年、学籍番号、メールアドレスなど
- ・志望理由と研究関心

所属、氏名、メールアドレスを明記のうえ、志望理由（400字以下）、卒業論文で取り上げたいテーマ（2000字程度）について論じてください。

- ・レポート課題

以下の文献を読み、その内容を要約し、自分自身の意見を述べなさい。

課題文献：小熊英二『日本社会のしくみ』講談社現代新書

前半で著者の議論を要約し（2000字程度）、後半で、著者の議論について論評する（1500字程度）。

- ・成績証明書をスキャンしたファイル（書類の中に、学籍番号と氏名が明記されていること）
- Googleフォームからアップロードして提出してください。

本研究会では、最低2万字以上で卒業論文を執筆していただくことを必須の課題とします。4年時に研究会に出席し、卒業論文を執筆する意欲のあるみなさんに来ていただきたいです。今回提出していただく研究関心の部分では、卒業論文でどのようなテーマをどのように論じるか、最低2点以上の文献を参考にし、それらを比較しながら論じてください。竹ノ下研究会で扱うテーマは、不平等研究や社会階層論に近いものが望ましいですが、広く社会学全般についても対応可能です。階層論は、家族、学校教育、労働市場という3つの社会的領域の中で不平等が生じるメカニズムに注目します。また、ジェンダーや人種・エスニシティも不平等が形成される重要な要素です。地域間の不平等や国際比較、不平等と関わる社会保障政策や福祉政策も、階層論の守備範囲です。地域の間人間関係やソーシャル・キャピタルからも、不平等を考えることができます。担当教員は、統計データを用いて研究を進めていますが、質的調査を用いて卒業論文を執筆していただいてもいいです。とはいえ、何らかの社会調査データや資料に依拠して研究を進めていただくことを担当教員としては希望します。

質問や問い合わせのある方は、以下のアドレスまでお願いします。

hirotake[at]law.keio.ac.jp

[at]を@に変えて送信

4. 統一選考について

Google Formに入力し、成績証明書のファイルを提出した方についてのみ、2月4日（火）の統一選考日に選考します。選考の面接は、オンラインで実施される可能性が高そうです。詳細は、入ゼミ課題を提出した方に別途ご連絡差し上げます。面接には、普段と同様の服装でお越しください。選考結果は、遅くとも2月6日までにはメールにてお知らせします。